

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|-----------------------|----|-------------|
| ○事業所名 | 児童発達支援・放課後等デイサービス はねる | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2026年 2月 2日 | | 2026年 2月20日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 15 | (回答者数) 11 |
| ○従業者評価実施期間 | 2026年 2月 2日 | | 2026年 2月20日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 3 | (回答者数) 3 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年 3月 5日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|--|
| 1 | 平日の普段の活動の中で、クッキング(おやつ作り)や制作を行っている。遊びや活動のコンテンツが多いことで子どもたち同士の関わりや遊びが多く全体的に一体感があり子供たちの協調性につながっている。 | 子供たちの興味や嗜好を探りながら活動の内容や遊びを決めて意欲を引き出せるように考えている。集団活動では全員が参加できるように内容を考え、友達を待つことの大切さや勝ち負けにこだわることなく楽しむことの大切さを伝えている。 | 子供たちが主体的に考えて活動や遊びを決めてルールが守れるように毎日の活動の中で一人ひとりの自信につながるような支援を続けていきたい。 |
| 2 | オリジナルのICT療育プログラム(ココロマップ)と大型タッチパネルを使って学習アプリを活用することで支援の幅が広がった。 | 個別療育の一つとして、個々の発達や年齢にあった内容を選択しやすいようにアプリを揃えている。学習では漢字や計算問題などを行ったり、また他児と関わりあって遊べるツールとしても有効的に活用しています。 | 子どもたちが疲れたり飽きたりせずに継続していくためには、取り組んだ回数や点数などを視覚からわかりやすく表示するなど頑張りを評価していくようにしたいです。 |
| 3 | 訓練室の広さを利用して、粗大運動につながる活動プログラムを多く取り入れて子どもたちの健康体力増進にも力をいれています。 | 集団療育として、みんなで楽しく取り組める活動を職員全員で案を出し合って同じ活動が続いて飽きないように毎月新しい活動を考えています。 | 子どもたちが主体的に活動に参加できるように活動を決めたり準備や片付けなどの役割分担を含めて子どもたちの意見が活動に反映されるようにしていきたいです。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|--|---|
| 1 | 地域との交流や参加する機会がなく長期休暇期間やタイミングが合えば活動に取り入れたい。 | 現在の開所日・開所時間の都合上の問題もあり、長期休暇期間などで参加しやすいタイミングに合わないこともあり難しいです。 | 職員全体で意識しながら参加できる機会やタイミングを逃さないように情報を得られるようにこまめにチェックするように努める。 |
| 2 | 他の児童発達支援、放課後等デイサービスや福祉施設との連携をさせていただくタイミングが少ないです。 | 事業所内での活動が中心となり、外部との交流の機会が少なく、外部研修に参加する時間や日時を合わせるが難しいです。 | 他の事業所と情報交換を行い、合同研修やイベントに参加するように時間の調整など行います。 |
| 3 | 保護者会等の開催やご利用者様ご家族様の参加イベント等、保護者同士の交流の機会がなく、開催できていないです。 | 現在の開所日・開所時間の都合上の問題もあり参加しやすい時間や形式での活動が提供できていないです。 | 専門家を招いたりzoomを使っての参加しやすい環境を整備してオンライン勉強会や子育てについての相談会などを開催する。休日などを利用してご家族で参加できるワークショップの開催やイベントを企画する。 |